

も、水が溜まってぬかるんでしまえば、牛馬の足は凹面の底面まで達したと考えられる。それで、当時の人々の目に底面は映っていないとしても、窪みはますます深くなったのではなかろうか。

#### (4) 硬化面の形成

まず、一口に硬化面といっても人それぞれの感覚が異なるので、ここでは竹串が刺さらない程度以上の固さをもつ路面のことと断っておきたい。

前回は波板状凹凸面と併せて路面にのこる硬化面についても牛や馬が頻繁に歩いたのが要因ではないかと述べた。足裏にかかる圧力が牛や馬は人間の約7～8倍であると考えられるからである。大勢の人間が何度も歩いたとしても、圧力は一定であり現在まで硬化面がのこるほどの填圧はなされないのではなかろうか。そのことは発掘現場を振り返ると想像できる。半年を越える長期間の発掘調査で、数十名の作業員が毎日同じ場所を歩いても明確な硬化した面はみられない。しかし、廃土処理のために一輪車が同じ通路を通った所は、地面に光沢が生じ硬化した「ネコ道」ができる。この場合、重量のある廃土を載せた一輪車のタイヤにかかる圧力によって、硬化した面が出来上がったと考える。

人が頻繁に歩いてもある程度硬化した面が出来るとは、堅穴住居跡の床面や一昔前の民家に見られる土間の例からも解る。しかし、これらが基本的に屋根に覆われた状態で風雨にさらされないのに対し、道路面は常に風雨にさらされているので同列での比較は出来ないだろう。

#### 5 おわりに

整然と等間隔に並ぶ波板状凹凸面を発掘現場で目のあたりにしたことがある方は「まさか牛馬の歩行痕とは・・・、何をバカなことを・・・。」と思われるかもしれない。筆者自身も最初はそうであった。平成12年度に発掘調査した出水市大坪遺跡で、検出された波板状凹凸面について作業員の方々に話をしている時、ある方から「牛が歩いた痕じゃないかな？」と質問されたことがあった。その頃木馬道に興味を持っていた筆者は、「まさかそんなはずは・・・」と答えた。しかし、そのことが頭に引っかかっており、牛や馬を観察したり牛や馬が永年歩いた場所を調査するうちに考えが変わってきた。永年使用された道路面のあり方を研究するには、机上で想像するよりも一昔前の道がどのような状態で現在に至っているのか追究する必要があると考える。そのためには、日本でも海外でも自動車の通らなかった道を調べることが近道であると考え。筆者に対する御批判は、ぜひ近くの牧場を訪ねていただいた後に賜れば幸いである。

#### 謝辞

次の方々と機関にご教示やご協力いただきました。厚くお礼申し上げます。(順不同・敬称略)

久留主力・安藤一夫・小島道裕・稲村博文・山形県米沢市教育委員会

#### 【 註 】

- 1 東和幸 2001 「出水市大坪遺跡発掘調査概要報告」『鹿児島県考古学会平成13年度秋季大会研究発表資料』鹿児島県考古学会  
2002 「波板状凹凸面牛馬歩行痕説」『日本考古学協会第68回総会研究発表要旨』日本考古学協会  
2002 「波板状凹凸面に関する第3の見解」『四国とその周辺の考古学』犬飼徹夫先生古希記念論文集 犬飼徹夫先生古希記念論文集刊行会
- 2 北郷泰道 1987 「東大寺虹梁と日向 神話化の構造」『えとのす』第32号 新日本教育図書
- 3 重永卓爾 1991 「日向国における古代・中近世の道路状遺構(基底部にpitを伴う)をめぐる諸問題」『大岩田村ノ前遺跡発掘調査報告書』都城市文化財調査報告書第14集 都城市教育委員会
- 4 飯田充晴 1991 「埼玉県所沢市東の上遺跡」『日本考古学年報42』日本考古学協会  
1993 「道路築造方法について - 埼玉県所沢市東の上遺跡の道路跡を中心にして -」『古代交通研究』第2号 古代交通研究会
- 5 早川泉 1991 「古代道路遺構に残された圧痕」『東京考古』第9号  
1997 「古代道路遺構の虚像と実像 - 東山道武蔵路の調査を通して -」『古代交通研究』第6号 古代交通研究会
- 6 近江俊秀 1993.3 「第5節 道路状遺構の構造に関する検討」『鴨神遺跡』奈良県文化財調査報告書第66集 奈良県立橿原考古学研究所  
1995 「道路遺構の構造 - 波板状凹凸面を中心として -」『古代文化』第47巻第4号 古代学協会  
1997 「古代道路遺構の形態からみたその性格」『古代交通研究』第7号 古代交通研究会  
1997 「道路跡一覧 (1997年4月現在)」『古代交通研究』第7号 古代交通研究会  
1998 「道路跡一覧」『古代交通研究』第8号 古代交通研究会  
2000 「(書評) 筑紫野市教育委員会編『岡田地区遺跡群Ⅱ』」『古代交通研究』第9号 古代交通研究会  
2000 「道路跡一覧 (1999年8月現在)」『古代交通研究』第9号 古代交通研究会  
2001 「道路遺構の変遷」『古代交通研究』第10号 古代交通研究会
- 7 山村信榮 2001 「古代道路の構造」『古代交通研究』第10号